

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成 29 年 3 月 23 日 (2017.3.23)

【公開番号】特開 2015-197195 (P2015-197195A)

【公開日】平成 27 年 11 月 9 日 (2015.11.9)

【年通号数】公開・登録公報 2015-069

【出願番号】特願 2014-76594 (P2014-76594)

【国際特許分類】

F 1 6 L 37/12 (2006.01)

【F I】

F 1 6 L 37/12

【手続補正書】

【提出日】平成 29 年 2 月 8 日 (2017.2.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

配管接続部材のステム部内径中心軸から径方向の最大寸法がねじ部材のねじの中心軸から六角部の径方向の最大寸法より大きい狭所配管用の管継手であって、

前記配管接続部材および前記ねじ部材の 2 部材を備え、

前記ねじ部材は、工具で締め付けるための六角部と、機器の取付孔にねじ込むためのねじ部と、内部に係止部材とを有し、

前記機器の取付孔に前記ねじ部材を螺合接続した状態で、前記配管接続部材のステム部に形成されている溝部が前記係止部材に係止される

ことを特徴とする狭所配管用継手。

【請求項 2】

前記配管接続部材の内周部に配管用チューブを保持するための爪を有する係止リングが收容されており、前記係止リングにより前記配管用チューブが保持される

請求項 1 に記載の狭所配管用継手。

【請求項 3】

前記配管接続部材は配管用チューブを圧入する竹の子形状の筒を有する

請求項 1 に記載の狭所配管用継手。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明が解決しようとする課題は、配管と配管の間隔が狭い箇所に機器側への特殊加工の実施や特殊工具の使用なしに、取り付けられる狭所配管用継手を提供することを目的とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

【 0 0 2 2 】

次に、上記の構成を有する狭所配管用継手の取付作業を説明する。

図 3 は、ねじ部材 1 a、ねじ部材 1 b、ねじ部材 1 c をスパナ 2 9 とソケットレンチ用ソケット 3 0 を用いて機器 3に取り付けた状態を示す図であって、図 3 ( a ) は平面図、図 3 ( b ) は斜視図である。図 3 ( b ) では、ねじ部材 1 c との嵌合状態を確認できる様に一部を切断した状態で図示している。